高田川新聞

２０１６年６月２７日
発行者
高田川部屋後援会事務局
〒135-0024
東京都江東区清澄２－１５－７
www.takadagawa.com

大相撲七月場所
平成28年7月10日より15日間
於　愛知県体育館

高田川部屋
七月場所　名古屋道場
愛知県名古屋市港区
東茶屋1-556

高田川部屋では15歳から22歳までの力士を目指す若者を随時募集しております。

新弟子募集、四人マス席、千秋楽祝賀会、後援会など各お問い合わせご案内は、

行司　式守勘太夫 まで
電話　090-3215-6524

輝　勝負の幕内へ

輝の新たなる挑戦

平成二十八年の夏場所は、高田川部屋にとって苦しい場所となった。昨年は、四十三ある部屋中、勝敗差数が第二位と躍進を続けていた高田川部屋だったが、四場所ぶりに負け数が勝ち数を上回ってしまった。勝ち越しも三分の一にあたる七力士のみ。その中で活躍が目立ったのは、やはり部屋頭の関取・輝だった。

先の大阪場所、一場所での再入幕をめざし臨んだ輝だったが、迷いのある相撲で七勝八敗と負け越してしまった。しかし、最後の二番では本来の突き押し相撲が戻り、復活の兆しがみられた。そうして迎えた五月場所初日、北太樹に快勝して期待は膨らむ。しかし、二日目からまさかの四連敗。大阪での悪夢がよみがえる。だが、五月場所の輝は違っていた。六日目からは不戦勝の一勝を挟んだものの破竹の七連勝と勢いに乗る。前に前に出る輝らしい相撲が帰ってきた。特に九日目、新十両ながら初日から八連勝と勢いに乗る佐藤に、輝が初めて土をつけ、先輩の意地をみせた。これまで、腰が高いと言われ続けてきた輝だったが、自分より背丈が二〇センチも小柄な佐藤に対して低い姿勢から休まず一気に攻め立てた。

実は、三日目の石浦戦の後、部屋へ戻ったふがいない輝を、堪りかねた師匠の高田川親方が一喝した。

この日から、国技館での取組が終わると、部屋の土俵で、テッポウ、四股、摺り足などの基本練習をひとり黙々と繰り返した。今年初場所、新入幕で四勝十一敗と撥ね返された時、立ち腰で上づっぱりでは幕内では通用しないと痛感したことを思い出した。今まで以上に十分に腰を落として膝を曲げる。それだけをイメージしながら、ただひたすら無心で稽古に汗を流した。

荒鷲、東龍戦では敗れたものの、千代翔馬戦では結果が出た。不戦勝を挟んでも千代皇にもよい形で勝てた。いい流れができていた。下半身で、足腰で、しっかり相手を押し出す。土俵ぎわに追い込まれても相手の動きをよくみて、一瞬にして突き落とす。強い輝がそこにはいた。千秋楽には、十両優勝の千代の国にも勝ち、十両東の五枚目ながら二桁十勝して再び幕内へ。

名古屋場所、幕内力士として輝の新たな挑戦が始まる。シャンパンゴールドのまわしを文字どおり輝かせて、輝は大暴れしてくれることだろう。

幕下で気を吐いた安芸乃山

幕下上位三名が関取の座をかけて臨んだ五月場所。結果として大きな壁に跳ね返されてしまった。その他の幕下勢では、ベテランの大雷童が怪我で初の休場。このところ好調だった大神風も大きく負け越しという中、二〇〇キロ超えの巨漢・安芸乃山だけが三場所続けての勝ち越し、そして五勝と、ひとり気を吐いた形となった。これで約二年ぶりに自己最高位を更新する可能性も出てきた。

この一年半というもの、幕下の三十枚目から五十枚目を往ったり来たり。双子の弟・安芸乃川にやや水をあけられた感があったが、このまま好調さを持続できれば双子関取誕生も夢ではない。大きな体ながら身のこなしが柔らかく、土俵際にも強い。つい引いてしまう癖を直し、体を生かした相撲が取りきれれば、本人のめざす「動けるあんこ」として大銀杏を結う日も近い。

恵比寿丸、湘南乃海　飛躍の四場所連続　自己最高位更新

高田川部屋では、自己最高位を更新する勝ち越しを「飛躍賞」と呼んでいるが、恵比寿丸二十五歳、湘南乃海十八歳の勢いが止まらない。夏場所も四場所連続の勝ち越しを決めて、自己最高位も四場所連続更新中だ。自己最高位となると、相手力士もより強い相手と当たるのは当たり前。両力士とも黒星発進となってしまったが、恵比寿丸はそこから三連勝、湘南乃海も黒星先行で後のない一勝三敗からの三連勝で見事勝ち越しを決めた。特に十三日目の福の邦戦で、湘南乃海は気迫溢れる捨て身の首投げで強引に相手力士をぶん投げた。高田川親方の言う「相撲は気持ち」の言葉どおり、気迫が勝った一番だった。

幕下へ　争い熾烈に

三段目では、十一名の力士が虎視眈々と幕下昇格を狙い、日々稽古に励んでいるが、五月場所では大乗六勝、大野城五勝と大きく勝ち越し、次の名古屋場所の成績次第では再び幕下へ上がれる可能性が出てきた。大乗は平成二十五年の初場所、大野城は昨年の九州場所、両力士いずれも一場所限りの幕下顔見世。次に上がる時は、しっかりと幕下定着を狙い、その上の地位へ上るための足固め、地固めをしてほしい。

大由志　引退

入門からまる六年。ようやく相撲取りとして自力をつけたばかりの大由志が、実家の稼業を継ぐため、突然の引退となった。愛らしい風貌と明るくおちゃめなムードメーカー。高田川親方の計らいで五月場所千秋楽祝賀会の席上で断髪式を行った。高田川後援会の皆様、兄弟子、弟弟子が次々と髷に鋏を入れ、こみ上げる涙を堪えた。最後は師匠である高田川親方が大銀杏を切り落とし、相撲人生に幕を閉じた。まだ若干二十一歳。第二の人生では、人生の横綱を目指す。自己最高位は三段目九十五枚目。

＜ご当地力士紹介＞

名古屋出身の剛力山です。兄の影響で高田川部屋に入門しました。得意な形は右四つ。引かずに前へ攻め続ける相撲を目指しています。名古屋でもご声援よろしくお願いいたします。
本名：中世古貴之（昭和54年3月21日生）

高田川親方の喝！

十両のチャンス目前の幕下力士、揃いも揃って皆負け越し。この力士たち、何が足りないのか、自分でわかっているはずだ。一番の重み、その一番の勝負が相撲人生を大きく変える。ここ一番に命をかけて本当に戦っているのか。そんなこともわからない力士はそれで終わる。

輝は同じく苦しい立場の一勝四敗から七連勝して、終わってみれば十勝して幕内復帰を決めた。取組後も黙々と稽古をやった結果だ。誰ひとりとしてまねる奴がいなかった。何が自分たちに足りなかったか再認識し、みつめ直せ。そこがわからない限り、後はない。

※表記の番附は正式発表前の予想

幕内	輝	先場所 10勝5敗	○●●●●○○○○○○○●○○
幕下	竜電	先場所 3勝4敗	●●●○○○●
〃	白鷹山	先場所 2勝5敗	●○○●●●●
〃	安芸乃川	先場所 3勝4敗	○●●○○○●
〃	安芸乃山	先場所 5勝2敗	○○●○○●○
〃	大神風	先場所 2勝5敗	○●●○●●●
三段目	大雷童	先場所 全休	ややややややや
〃	大野城	先場所 5勝2敗	●○○○●○○
〃	大乗	先場所 6勝1敗	○○●○○○○
〃	湘南乃海	先場所 4勝3敗	●●○●○○○
〃	鶴乃湖	先場所 3勝4敗	●●○○○●●
〃	恵比寿丸	先場所 4勝3敗	●○○○●○●
〃	勝武士	先場所 4勝3敗	○●○●○○●
〃	剛力山	先場所 3勝4敗	○○●●○●●
〃	須磨ノ海	先場所 1勝6敗	●●●●●○●
〃	太熊	先場所 2勝5敗	●●○○●●●
〃	前乃富士	先場所 1勝6敗	●●●○●●●
〃	暁	先場所 3勝4敗	●●●●○○○
序二段	櫻	先場所 2勝5敗	●○●○●●●
〃	前大将	先場所 3勝4敗	○●●○●○●

五月場所は、稽古のおかげで体もよく動いて十番勝てた。幕内では、下を見ず、上だけを見て自分らしいいい相撲を取り、地元からも近い名古屋で期待に応えたい。

プレッシャーに負け余裕なく攻めきれなかった。全勝するつもりで気持ちを前に出した相撲を取りたい。。

せっかくのチャンス、後半息切れしてしまった。気合いを入れなおしてスタミナをつけて再挑戦したい。

三勝三敗から負け越してしまったが、まだ十両を狙える番付。ここからが本当の勝負と思って頑張りたい。

思いきりのいい相撲で結果が出た。幕下上位に入れるように、どんどん前へ出ていく相撲を磨きたい。

きっちりやるべきことをやりながら、もっと体を作って応援してくれる人のためにもより一層頑張りたい。

初めての全休。相撲を取りたくて仕方がない。復帰まで気持ちを切らさないようにして治療に専念したい。

体調もよくイメージした相撲が取れた。少しずつ体を作りながら、もっと速い攻めで連続勝ち越しを狙いたい。

先場所は調子もよく、勝つことで自信も出て六勝できた。連続で勝ち越して幕下を狙いたい。

兄弟子が胸を貸してくれ、いい稽古ができていて結果につながっている。早く幕下へ上がれるよう頑張りたい。

体調もよく稽古もできていたが、三勝しかできなかった。気持ちの勢いをつけて大勝ちを狙いたい。

思いきりのいい立ち合いでよい流れができて続けて勝ち越せた。怪我だけは気をつけて上を目指し頑張りたい。

勝ち負けに左右されず、一番一番大事に、常に平常心で自分の相撲を取って連続勝ち越しを目指したい。

地元の皆さんに喜んでもらえるよう前半から勝って勢いをつけて大勝ちしたい。

メンタル面も鍛えて、体調を上げて、次は全勝するつもりで臨みたい。

二場所連続で二番しか勝てなかった。来場所こそは大きく勝ち越してその分まで取り戻したい。

体調管理をきちんとしながら気持ちを強く持って、次の場所は絶対に勝ち越したい。

負け越しはしたが、後半三連勝できた。その勝つイメージで自分を変えて相撲で自分を語りたい。

名古屋は例年暑いので、体調管理を十分しながら勝ち越しを目指したい。

来場所こそは三勝三敗から勝てないジンクスを崩して勝ち越す。そのために前半から白星を先行させたい。

三役行司　式守勘太夫の目

輝関、先場所序盤一勝四敗から幕内昇進を決める十勝を挙げた。連敗し部屋に帰宅した輝は師匠に大目玉を食らった。「なんだ、そのヘッピリ腰は。四股を踏め」。六日目から快進撃が始まった。勝ち進むも連日夕方四股を踏み続けた。押し込まれても回り込み、下半身が安定した負けない相撲を取り続けた。圧巻は十一日目。朝弁慶にあっさり上手投げに敗れたと見えた相撲。行司軍配は朝弁慶に上がったが、物言いがつき、ビデオでは投げられてつきそうな右腕を勝ちへの執念か思いきり引っ込めていた。態勢が考慮され、取り直しの末、勝ちを収めた。負けない相撲、下半身の安定で相撲が広く見えだした輝は師匠から帝王学を学んだ形だ。引退する同期生で大親友の大由志の断髪式にも再入幕で花を添える形となった。

◆式守辰之助　本場所デビュー

春巡業、五月場所七日目までの前相撲で実践を重ね、五月場所中日八日目、式守辰之助が序ノ口行司として土俵に上り、角界人としての第一歩を踏み出した。

＜行事のご案内＞

高田川部屋　激励会
平成28年 7月 3日（日）午後6時開場

高田川部屋　千秋楽祝賀会
平成28年 7月24日（日）午後6時半開場

※ 会場は両日とも高田川部屋 名古屋道場にて（会費制）
各お問い合わせ・お申込み　／　行司　式守勘太夫
電話　090-3215-6524